

Modern pit dwelling

House in Saijo

Learning from the primitive house in Japan, pit dwelling.  
The leftover soil by excavating the ground, which is used for the shell around the house.  
It is protecting the expansive space and privacy.



一棟家に限る時はいつか、そこに暮らした人を見たいと日々、考えている。西条の事は、元々田舎であった場所が、宅地として造成された区画の中にある。建主は、若い夫婦と子ども3人で、プライバシーを守りながら明るく開放感のある住まいを望まれていた。

以前は、田舎であったこともあり、支持層が地盤面よりマイナス1メートルの所にあることから、計画当初から地盤改良ではなく、半地下の構成により支持することを考えていた。半地下をつくることで発生する土は、比較的広い敷地であることを利用して、建物の周囲に広げておくことで、内部からは緑を眺めながらの機能とプライバシーを守ることが可能にした。机上より生まれた家は、子どもたちが緑を利用して走り回ったり、段ボールのソリ遊びをしたり、花袋のように投げられて、音が子どもたちの笑い声と土の降りる音がそこに生まれている。半地下より上層は、大きな屋根をかけるだけとし、頂上部分のトップライトより採光を確保している。明るく開放的な空間、静かで落ち着きのある1階、閉じていられるようにされた2階と、季節は床下の中央に設けられた穴によってつながりながら、性格の異なる場を表現している。

支持することを目的として生まれた半地下に大屋根を掛けるだけの行為は、住む場所として最初に生まれた建築“たて穴式住居”に近い、最小限の要素でつくるといふ合理性を受け継ぎながら時代の技術によって豊かな場を表現している。建築をする以前から、既にそこにあった樹木が建築とより関わることであり、土地に敬意を払うことに繋がっており、動物と建築が今まで以上に密接な関係を築くことで新しい豊かさにつながることを願っている。

